



演劇WS・演劇的手法を取り入れた授業より

1 演劇的手法を取り入れた授業に係る研修会(10/22 豊岡小)より

○「机間巡視(指導)」について

→アイデアは出さないが、出ているアイデアについてどう生かせるかを伝えるようにしています。その後、生かしきれていなかった場合も、誘導はしないようにしています。普段、児童生徒をよく観ておられる先生方が感じられるアドバイスをすることが大切です。

○「時間設定」について

→基本決めています。(微調整はよいが…)短めに設定します。理由は、早くできてしまった班は飽きてしまうからです。延長はしません。本プログラムの一つの目的は、「時間内にとりあえず何とかする」ことにあります。

○「不適切な発言」への指導について

→笑いとは差別は隣りあわせで、表現活動は、リスクを伴います。ルールとして、人を傷つけないことです。振り返りで押さえることです。創作時の机間指導で、「その言葉はどう思うかな？」等、適宜指導することは大切です。

○話し合いが得意、不得意な児童生徒がいる中、どのように雰囲気を作るとよいか

→創作は、従来型の学力が反映されにくく、普段の授業で、参加しにくい児童生徒も参加しやすいものです。授業のスタートで、本プログラムの目的を端的に伝えることが大切です。

○「グループ編成」について

→リーダーシップのある子が仕切ってしまうと、失敗しやすいことがあります。プログラムの途中で「全員が参加するにはどうするか」と気付く子と気付かない子がいます。参加しにくい子の存在に居場所を創る、無意識に体感できるのが演劇プログラムです。

○小規模校での取り組み方について

→5、6年生合わせて行うことも可です。また、近隣の小学校と合同して行うことも可です。今後、制度的な工夫が必要となってくるでしょう。

○本プログラムで時間を延ばすなら→1時間目の創作、長くても25分。

○ポイントを黒板に提示してよいか→よいです。①折り合いをつける②やり抜く力に絞って提示する。

○振り返りをワークシート等にも書かせてもよいか→よいですが、書かせないことの方が多いです。

○表現の際、声が小さい場合への関わりで気をつけていることは→無理させないことです。

2 演劇WS(市内各校)より

○「何に見えた？」という質問の意義について

この質問は、観客としての可能性・感受性を大切にする質問であり、受け手がどう受け取ったのかを最優先するためのものです。感想を伝えあう場合は、個々が自分なりの受け取り方で様々な世界観を形成し、全員で全体の空間を創り出すというとても素敵かつ大切な時間なのです。事実、様々な感想が出た際、発表した子どもたちは、この上ない笑顔を見せます。

○「グループ編成」について…関係性の中で個々の可能性を引き出す

意図的にリーダー性のある児童をグループに配置するときもあれば、そうでないときもあります。得てして、今までリーダー性がないと思われていた子どもたちだけでのグループから新たなリーダーシップを発揮する児童が生まれてくることもあります。回を重ねるごとに、過去情報を考慮してグループを決めています。

市内各校の演劇WS・演劇的手法を取り入れた授業に係る研修会、それぞれ実施後の声をまとめました。非認知能力、コミュニケーション能力は、子どもたちの生活すべてにおいて向上する機会がたくさんあります。学校で、家庭で、地域で子どもたちへの関わりについて、ぜひご参考ください。

